

会報

聖母の騎士学園
同窓会

〒850
長崎市本河内町160
TEL 095-823-4523
FAX 095-823-4759

創刊号

発行によせて

校長 崎浜宏美

「ゆるぎとは、遠くにありて思うもの」とは、場所的なことより、むしろ時間的なことを言っているのではないかと、最近思うようになった。このところの、世の中の動きや変わり方が、あまりにも激しすぎると実感しているからかもしれない。

長崎へ来てから五島が近くなったこともあり、時々生まれ育った村に行くことがある。少年の頃、牛を追った道も薪を背負って歩いた道も、今では姿を棄ててアスファルトの道になっている。岩場に少し石垣を足して造ってあった舟着き場は、丈夫で立派な波止場になっている。しばし空想にふけったこともある子どもの頃でさえ、夢にも描けなかった世界が出来上がっている。

しかし、そこに佇んでいるとふと物悲しい気分におそわれること

がある。それは発砲スチロール、ビニールやプラスチック類のゴミのせいだけではないようだ。わずかに三〇年前には存在した隔々まで手の行き届いた田畑が消え、それと共に豊かな自然の中に息づいていた人の気配が村に感じられなくなっていたからであろう。

このたび、第一回生の水浦久之氏の発案で、同窓会報が誕生することになった。氏が還暦を超え熟年者として若き日々を振り返った時、おそらく人間にとつてのかけがえのない生涯の財産とは何なのか、一つの答えを見つけたことによるものであろう。

人の生涯は様々である。同窓生で、すでに神さまに召された方々も私が知る限り十指に余る。そして、その生涯は単純に他と比較できるものではないが、喜びや悲しみの体験も、人生のよき糧として

活かすことができることも確かである。

「神のはからいは限りなく、生涯わたしはその中に生きる」という聖書の言葉のように私は美しい人生を描いているとは言えないが、人と人の出会いは神さまのご計画の中にあることを信じていることはできる。本校を舞台として、数知れない出会いがあったことは事実である。

この会報のねらいは、この小さな学校でのそれぞれの出会いがすべて神さまの恵みの印であったことを確認させ、更にこの会報を通じて新しい出会いや再会の橋渡しをしようと言うものである。

いづれにしても母校は、そこで学んだ者にとっては大切な心の故郷である。創立六〇年を過ぎ、種々の試練を乗り越えて、その姿も多少は変わってしまった。しかし、創立者聖コルベの息吹はその足跡とともにしっかりと残されている。去る五月には、「聖コルベの弟子を司教に」との教皇様の意向で、本校出身の押川那覇司教が誕生しためでたい限りである。

この会報が、同窓生の皆さんにとって、希望に燃えていた青春時代の思い出をよみがえらせ、確かな足取りで神さまに向かう人生の糧の一片となるように心から祈るものである。

同窓会の 皆さんへ

会長代行 竹中昌三

全国の同窓会の皆さん、お元気でしょうか。小生は、崎浜校長、阿野先生たちと同級です。

同窓会が発足したのは、一九八一年ローマ法王来日のおり、母校を訪問された時でしたからすでに十六年の歳月がながれていきます。

初代会長水浦久之氏、二代目築地氏、三代目は永田明義氏が選任されていましたが、一身上の都合により辞任されました。事の成り

行きから小生が十月までの約束で代行を務めさせてもらっています。この度、同窓会より母校と在校生へ何か形ある物を残したいという願いから別記の事項を理事会において決議しました。同窓生の皆さんには何かと御意見も有るかと思いますが、皆さんの協力なしには何も出来ません。ご指導、ご協力をお願いする次第です。

十月二十五日の全国同窓会においては、思い出の数々を呑みながら、食いながら、そして豪放磊落、談笑のなかで互いに兄弟的旧交を温めたいものです。奮ってご参加下さい。

楽しみにお待ちしております。

同窓会総会のお知らせ

下記の様に予定しております。たくさんの御参加をお待ちしております。

また、参加のご連絡は学園同窓会係あてに、10月15日必着でお願いいたします。

日時 10月25日(土)
ミサ 3:00~ 本河内教会
総会 4:00~ 教会ホール
懇親会 6:00~ コルベ記念館

懇親会会費 5千円

同窓会事務局から

卒業生の皆様お元気ででしょうか。こちらは相変わらず忙しい毎日をおくっていますが、皆様方、各々社会で御活躍されていることと思います。また、日頃は本校の同窓会活動につき格別のご高配を賜り衷心より感謝申し上げます。

さて、四月二〇日(日)に行われました理事会で、以下のことが決定されましたのでご報告致します。

一、会長代行として、竹中昌三氏就任。期間は今年度一〇月までとする。

二、毎年十月のロザリオ祭前日(土

曜日)に総会を開催する。

(本年度は十月二十五日)

三、新会長選出は総会時に行う。

四、新理事として、学園教諭・小島正人先生を加える。

五、毎年一回、会報を発行する。

六、今後、高校卒業生の中から毎年一名を学年理事として選出し、同窓会の円滑な運営の補助をお願いする。

(本年度は大浦浩一君)

七、前管区長 押川神父様が那覇教区司教様に就任されたので、お祝い金として本会から十

万円を贈る。

八、学園劇に対し、毎年十

万円を補助する。

九、中高総体援助金として各クラブに一万円

ずつ補助する。

(本年度は六万円)

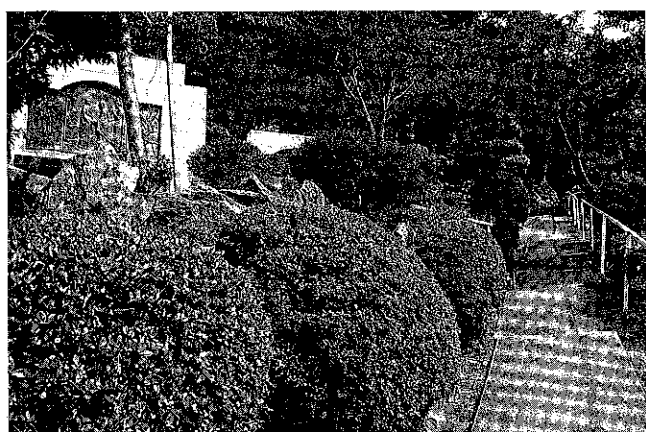
十、今年度、卒業記念品としてマグカップを

制作する。

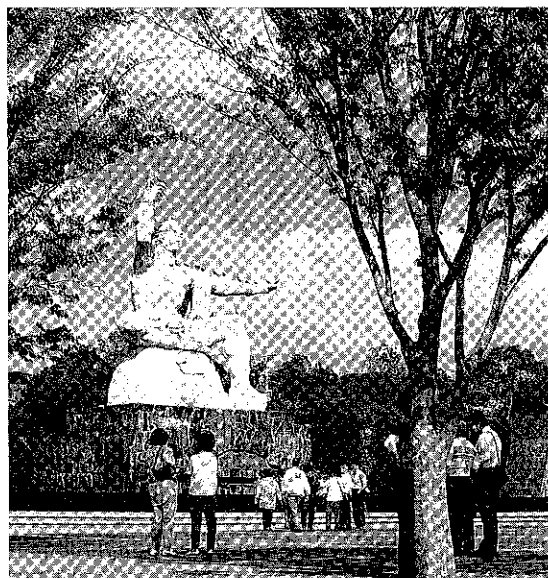
(予算二十万円)

十一、今年度より、同窓

会費として年額三千円を徴収する。



ルルドへの道



平和公園

同窓会費徴収のお願い

今までの同窓会活動の中で、これまでの同窓本部は、活動らしい活動をしてきていないのではないかと、という役員からの意見があり、今後、OB諸氏と学校とのパイプ役をする必要と、学園及び在学生の援助をしていくことも、本同窓会の活動の一環であるという意見がまとまり、今後、まず上記5の

いお願いとは思いますが、今後の円滑な会運営のために、年額三千円の会費徴収をお願いする次第です。どうか上記のこと、主旨をご理解いただき、何卒ご協力をお願い致します。尚、徴収されました会費につきましては、今後会計報告をしていきます。



ルルドのマリアさま

◆本部役員

会長代行	竹中昌三
副会長	里脇岩男
梅木修	
伴理史	
山下出水	
崎浜宏美	
水浦久之	
築地重信	
古田悦雄	
熊川武俊	
中村義男	
杉山宣明	
窄口富行	
吉岡繁信	
町田良二	
山村幸雄	
本田龍美	
榎光	
松本修	
小島正人	
石田光勝	
峰徹	

◆地区世話人

長崎地区	竹中昌三
佐世保地区	杉山宣明
五島地区	赤尾輝幸
福岡地区	竹山誠
奄美大島地区	西田正
萩原儀一	
関西地区	萩原儀一
関東地区	山野尊行

— 短 信 — 恩師から



その心いつまでも

高原秀彦

聖母の騎士学園に勤務させていただくようになってからいつの間にか、三十年程になり、最古参になつてしまいました。

中学数学を担当してきましたが、高度で、分量も多いムチャな事を要求していた時期もあり、思い出すだけで、冷や汗が出ます。そういう時に私と出会ってしまった卒業生の皆さんには、心からおわび申し上げます。

現在の教科書は、易しくなりました。にもかかわらず、数学を苦手とする在校生もいて、何とか数学が解るようになって欲しい、数学を好きになって欲しいと毎日あがいています。勤務し始めた頃と全く進歩していない私ですが、その心をいつまでも持ち続けたいと思つています。

生きております

小中 滋

私が聖母の騎士学園に勤め始めて二十年以上の歳月が過ぎ去つてゆきました。勤め始めた年度の高校三年生は今年四十歳を迎えているはずですから、本当に遠い遠い昔のことです。その間、卒業したり、途中で転校していった多くの生徒たちは私の胸の中に、この学園を去つて行った少年のイメージのまま焼きついています。

どうぞ皆さん、機会を見つけて学園へ立ち寄つて下さい。私も二十年前と少しも変わらず、生きておりますから。

至福のひと時

橋里 征武

この間、本校に赴任して間もない頃の写真を眺めていたら、まだ髪の毛がふさふさ(スポーツ刈りだった)とあり、思わず、当時の自分が懐かしくなりました。と同時に、往年の卒業生諸君の事も色々と去来してまいりました。

当時は拳骨や檜の棒で随分殴つたものでした。何の考えもなく本当に申し訳なかつたと、反省に反省を重ねて、今日ではすっかり優しいやさしい神様になっています。先日Y君がきれいな奥様と子どもさんを連れて来ました。教師になつて北海道に旅立つとのことでした。

皆さんを連れて来ました。教師になつて北海道に旅立つとのことでした。

大きく大きく成長していく卒業生の皆さんを拝見して、頼もしくもあり、教師としての至福を感じるひと時でした。

Y君をはじめ、皆様の御多幸と御活躍を遠くから祈つています。

テニス部OBへ

野村 修

伝統あるテニス部を休部にして、五年目になります。雪の舞う一月の試合が懐かしい思い出となりました。今から二十三年前の昭和四十九年、部員数名でスタートしましたね。同好会でのスタートで、予算がおりず、二百円ずつ出し合つてボール六個を購入し、真っ黒になつた、少し変形したボールでも大切にして練習しましたね。一回戦を勝つのに何年かかったのかな……

昭和六十年代になり、団体戦も三回戦までは残れるようになり、個人戦では長崎市で準優勝する強力なチームも出て全盛期を迎えましたが、その後は部員不足のため休部になっています。又、再会するチャンスがあればテニスコートで会いたいものです。

手みやげ

博多屋 経徳

「聖母の騎士」という女子校に勤めるかもしれん」と、大学時代の友人や後輩と夜が明けるまでドンチャン騒ぎをして喜んだ。

採用のための面接に来てみると、チャンチャンコに白い短パン(たぶん体操服)を着た男の子が外の階段を掃除していた。面接の最後に恐る恐る大曾校長先生に「共学ですか」と質問した。校長先生はニコニコしながら「先生、残念ながら本校は男子校です。」その言葉で青春が終わつた。

あれから十数年の月日が流れ、本校の雰囲気も時代の流れと私の体重とともに変化したと思う。しかし、何年たつても卒業生が手みやげを持つて挨拶に来てくれる時が一番うれしく思う。「先生、在学中はずいぶん殴られましたよ」と。

顔を見せてくれ

小島 正人

本校に勤務して十二年目を迎え、送り出した卒業生は約五百人近くになるうとしています。私も本校を卒業しましたが、ここに勤めるまでほとんど学校に顔を出すことはありませんでした。照れや恥ず

かしさもありません。ましてや優等生でもありません。今さらという気持ちもあつたかも知れませんが、おそろく皆さんも同じ気持ちの人も多いのではないのでしょうか。

ところが、教師になると教え子が学校を訪ねてくるのが、大変嬉しくて、来た人に「なぜ他の者は来ないのか」と勝手なことを言つたりします。でも、卒業生が何年かぶりに顔を見せると、本当になつかしく、忘れずに覚えていてくれたんだと、自己満足にひたり、嬉しく感じています。

毎年、中高合わせて、わずかに五十名足らずの卒業生しかいませんが、何年たつても一人一人の顔を忘れることは決してありません。また、私学ですから人事異動も少なく、私がお世話になつた先生方もおられます。しかし、年々歳はとつていきます。どうか卒業生の皆さん、先生方が元気なうちに是非、一度は学校に顔を見せてください。お待ちしております。

私も四十を過ぎ、恩師や同級生がなつかしく、妙に思い出されてしまいます。学校を卒業し、各地にバラバラに散つても、想いを一つにして励まし合ったあの時のことは決して忘れることはないでしょう。

会いたいね

熊川武俊

卒業生の皆さん、お元気ですか。こちら、昨年四人目が生まれ、賑やかな毎日を過ごしています。

さて、知念君、早く歯医者になつて下さい。私の虫歯が待っています。大宜見君、沖繩に帰ったそうですね。安心しました。小川君、お金を貯めて自分の店を早く持つて下さい。健、順君、兄弟力を合せてお店を大きくして下さい。そして、紙面の都合で書ききれないけれど、私が担任をした卒業生の皆さん、会いたいね。

ナマズ

田中貞範

ナマズは元気に仕事に励んでいます。皆様も活躍のことと思います。体育館落成後、十年が過ぎ、振り返るとバレー部はOBの皆さんに喜んでもらえるような活躍にはまだ至っておりません。申し訳なく思っています。さて、私には一つの夢があります。OBの皆さんが体育館に集まり、スポーツ大会が出来れば、と思っております。また、OBの皆様の協力により、中高総体の折りに在校生の為に過大なご協力を頂き感謝しております。校舎にも足を運んで下さ

い。皆様のご健康をお祈りしております。

あの坂道

廣島誠一郎

先日、学園の急坂を自分の足で登っていると、修道士さんに、「生徒の気持ち分かるでしょうか?」と言われてしまいました。そういえば最近はいく通勤の毎日、すっかり足がスマートになってしまったようです。汗をかきかき毎日登ったあの坂道、皆さん! もう一度あの苦労を思い出してみませんか? もちろん手にはお土産を持って!

学園にもどつて

阿野勝見

「今、通帳にはいくらある?」「十万と二十円」「じゃ、十万送ろうか」「意義なし」
今年の二月、関東地区の同窓会で学園劇に寄付を決めた時の様子である。
遠くはなれていると時々、母校の事が気になる。無人島への修学旅行、学園劇、制服の自由化等新聞で話題になる。うれしと同時に「育てることは静かに落ち着いて根気よく、目立ち過ぎると何か失うのではないか」と勝手に心

配していた。

今回の異動で六年ぶりに母校にもどつて来た。水浦久之さんが同窓生を集め、五島から魚を取り寄せ、歓迎会をしてくれた。「これは特別、阿野さんだけだぞ」と刺し身や煮つけにしてくれた。すばらしい先輩たちと同じ心を生徒たちはどう伝え、何を身につけて世の中に送り出すか、楽しい夢を見たが、十字架が現実のようである。

お元気ですか

馬渡秀孝

卒業生の皆様、お元気でしょうか。早いもので私も聖母の騎士に勤め始めて十年になります。わずか十年の間に学校は大変変わりました。校内も美しくなり、設備も増えました。修学旅行は無人島になり、四年前から毎年学園劇が行われています。バドミントン部も弱小ながら、個人戦では一勝する事もあります。私の趣味は釣りから山登りに変わり、髪には白いものが少し目立つようになってきました。もうすぐ四十になります。気が力だけは負けないようにして頑張っていきたいと思えます。

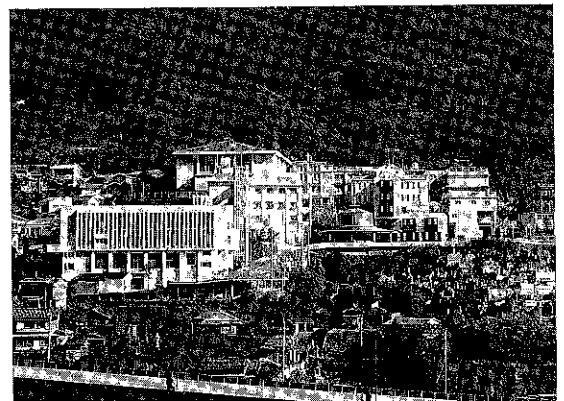
I'm looking forward to

seeing you again.

From MAWATARI

われらが母校

地区からの便り



山野尊行 (昭和34年10回生)

東京地区同窓会の簡単な生い立ちと近況を報告します。

昭和四十年(一九六五年)頃より毎年新年になると母校を心の拠り所とする同窓生たちが何となく亀有の聖フランシスコ幼稚園や赤羽教会に集まって旧交を温めておりました。

昭和五十六年(一九八一年)二月二十六日教皇ヨハネ・パウロ二世が母校を訪問されたのを記念して長崎で同窓会が発足したのを機に、我々も聖母の騎士学園東京地区同窓会と称するようになり、初代会長が花田永和氏、二代目が岡信夫氏でした。

現在は田辺久義、立石広海両君と私が先輩、後輩、及び修道会東

京地区の皆様温かいサポートのもとで運営しております。

例年二月十一日(建国記念日)頃親睦会を行っていますが今年も修道会の管区会議と重なったため、二月十六日(日曜日)に赤羽教会で開催しました。

アダム阿野ブラザーにお願いし関東在住の百名近い同窓生に案内状を発送して頂き、三十名近くの仲間が集まりました。

親睦会はいつも十二時のミサで始まりミサの最後には再会を感謝してテ・デウムをラテン語で歌い、その後は夕方まで懇親会となります。今年はその場で会費の残額の内より母校のナイツの会へ十万円を四月二十五日に行う事を決めました。

去る五月二十五日那覇教区の司教に叙階されたベラルド押川司教様もこの数年参加されていましたが、今年も又一緒でした。

神様が我々の仲間から司教を選出して下さった事を心から感謝すると共に、聖母マリアと聖コルベ神父様のご保護のもとにある我々同窓生に何か大事な問いかけをしておられるのではないかと感じております。

岡 信夫 (昭和32年8回生)

この度は、同窓会の会報発刊のお知らせを受けとても嬉しく思います。同窓会本部のこのようなリダーシップを永年望んでいた一人であります。

同窓会関東支部は、現在約五十名の会員がおりまして、昭和二十四年卒業の花田永和先輩を中心に毎年二月十一日頃同窓会を開催するのが恒例になっています。今年の同窓会には、先般、司教に叙階された押川司教様もご出席になり、三期目の管区長に推選されなかったのは、修道会で泡盛の配り方が少し足りなかったからとジョークまじりに話されていました。それにしては、母校から司教が誕生したと言つことは、聖母の騎士にとっても、また私たちにとつても誇りであり宝であることには間違いありません。叙階式には勿論、小職



も出席させていただきました。

話は同窓会にもどりますが、今年の同窓会の席上では酒の勢いとは言え、有志によるゴルフコンペを計画し、四月に第一回目の大会を開催しました。十二名参加しましたが、スタートホールから空振りがあるなど皆さん口と実力は全然違っており、学園で培ったはずの謙遜はどこへ行つたやらでした。でも楽しい一日を過ごしました。

以上が関東支部の近況ですが、現在の支部長は昭和三十四年卒業の山野尊行さんです。

今後は何なりと彼にご指示下さい。きっと力になれると思います。

松本 修 (昭和55年31回生)

十七年ぶりの再会

私たち昭和五十四年卒業生が同窓会のため母校に集まったのは、

平成九年二月一日だった。

まず、私たちは、先生方に挨拶をすませ、(先生たちも老けたな)田端神父に同級生の再会と来れなかった同級のためにミサを捧げていただいた。(同級に神父がいるのはなんていいことなんだ)

集まってくれたのは当時の美青年十名(卒業時十三名)、そしてやむなく中学で卒業してしまった三名、それに私たちを指導してくださった先生方、私たちをかわいがってくれた先生方、私たちがかわいがった先生方、後輩で宴を開き、学生時代の思い出、十数年前の罪の告白、十数年前の出来事などで、時の経つのも忘れ(最後に寝てしまふまで約十時間、よく飲むものだ)楽しい日を過ごした。

一つ気掛かりなのは、行方が掴めないのがあること。この場を借りて探していただきたい。沖繩出身、玉栄 悟、もし知っている方がいましたらお願いします。

榎 光 (平成6年46回生)

45回卒業生の皆さん、お元気ですか。久しぶりです。いつの間にか同窓会理事にされていた榎です。皆さんは学生として、また社会人として頑張っていることでしょうか。ぼくは高校生のときからやってきたソフトボールを市役所勤務の傍ら頑張っています。

かつてのソフト部の皆さんはその後続けていますか。山口勝也と久保和也とはこの間呑みに行きました。二人とも元気です。内野洋平、野田龍二君、長崎に来たときは電話してくれ。長崎在住の同級生と一緒に呑みにいこうぜ。たまには学校にも顔を出せとよ。理事になつたから言うわけではないが、恩師からの伝言だ。

とにかくよろしく頼む。

山浦義春 (平成6年46回生)

ちび太郎(吉武)君へ

風の便りによると君は今、過度の仕事により心身ともに痩せ衰えているとのこと。まさかあんな元気いっぱい君が……それを思うと胸が熱くなる。ちび太郎君、今ぼくが何処で何をしているか知っていますか。

共に六年間、あの隣の園児たちのわめき声を聞き、そして時には恩師たちの優しいゲンコツをもらった学園下の建物で、「修練」の日々を過ごしています。

修練生が何をするか君は知っているだろう。生涯この道を歩み続けることができるか、神と自分との戦いの一カ年でもある。共同生活を通して祈りと労働のなかで修道生活の基礎を学びます。そして自分の道を究めるべくにとつて大事な季節です。この長崎にいるの

も後半年、一度遊びに来てほしい。電車に乗って蛍茶屋で降りて坂を登り、ついでにルルドまで駆け登り聖水で喉を潤して……すごく元気になると思うよ。折っている。いま、唯一ぼくに出来ることだから。

騎士！募集

平成10年度生徒募集

世界のコンセンサス それは愛です

熱く静かに燃えた聖コルベ神父の偉功を一次世代への伝搬者・若き騎士たちを募る

進路問題でお悩みの方、ご一報下さい。ご相談に応じます。

現地入試も行います

関東地区/東京赤羽・聖母の騎士幼稚園
関西地区/兵庫西宮・仁川学院小学校

聖母の騎士中学校・高等学校

問合先 〒850 長崎市本河内町160番地/TEL095-823-4523/FAX095-823-4759

学園便り

教頭 吉田博愛

演劇



三年前の一九九四年から毎年一回、本校では学園劇を一般公開するようになった。通常学校で行われているような演劇部による定期発表会ではなく、公の劇場を借りきり、生徒をはじめ教職員総参加の、文字どおり学校あげての公演である。それだけに準備にかかる時間と意気込みは並みではない。そもそも学園劇をやるうとしたのは、当校の創立者コルベ神父の生誕百周年を記念して、水浦久之



1997年2月「風花の丘」公演

かという期待をもって始められた。すでに演じてきた「平和の鐘」「風花の丘」を合わせ、今年度公開予定の「草笛の道（神父発見物語）」をもって四回目の公演になるが、その甲斐もあってか、観客の皆さんの反応も思いのほか好評で、生徒たち一人一人の中で位置づけもさることながら、少しずつ演劇に寄せる想いの濃さと積極性が芽生えてきたように感じられる。

この学園劇が今後途切れることなく続き、行く行くは本校の伝統となって定着することを切望している。

しかし、何と言っても観客の皆さんのご協力があったこそその「学園劇」です。今後とも変わらぬご愛顧を賜り、特に生徒への末長いご理解と援助を願ってやみません。

無人島修学旅行

一方、五年前から実施してきた高校生による無人島修学旅行も、おかげでこれといった大きな事故に見舞われることもなく現在に至っているが、学園劇と同様、従来からのお仕着せの「観光」旅行ではなく、やはり本校の独自性にあふれた企画はないものかと、思案にくれたあげくの発案だった。

自然に触れる機会がほとんどなくなっている今の若者が、五島でのささやかなサバイバルを体験することで、少しでも生の自然を満喫し、豊かな感性を持つことができれば、この旅行の目的は半ば達成されたことになる。

学園劇に劣らず、準備に相当の時間を要するイベントだが、聖母の騎士学園の特徴の一つにでもなればとの祈りが込められている。



五島・サバイバル

やまびこ

★今回の内閣人事で大臣病にとりつかれた代議士先生方のなりふりかまわぬ姿をみて更めて失望した。肩書の欲しい人種はほかにいれる。自治会やPTA、同窓会などには何が面白くて何時まで続けるのか、訝しく思う人がたまにいる。それが名著欲からきているとすれば何とも可愛い話だ。だが、ゼニ儲けの手段として欲しがつっているとすれば人間として恥ずかしい限りである。

★やっと創刊号ができた。出来ばえは会員諸氏の判断に委ねよう。会員の住居確認が九〇〇名であった。当然全員に発送するわけだが、郵便代、印刷代しめて約四〇万円也。しかし、同窓会本部には現在

一枚の金もない。今回から徴収する事になっている同窓会費を当てにしているの発刊。まさに無謀を絵にしたような話である。しかし、誰も心配していない。誠心誠意一生懸命やれば必要なゼニは入ってくる。と本部役員全員？固く信じている。

それは学園創立者聖コルベの信条でもあった。この創刊号は、校長をはじめ、先生方の全面的協力によって発刊出来たことをご報告して感謝の言葉に代えたい。